あなたの合格のために

製図試験.com マニュアル

ver.241209

製図試験.com

合格からの逆算を！

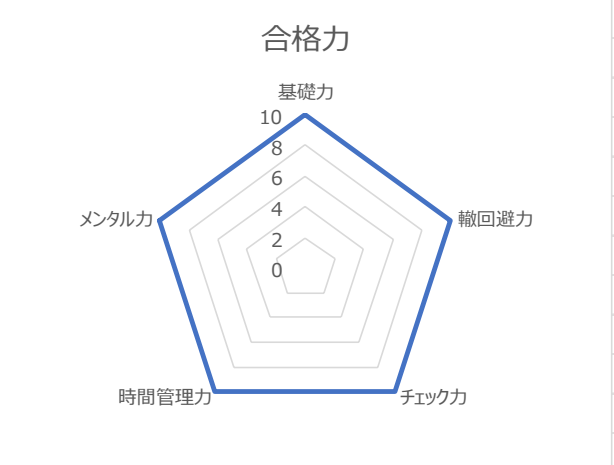
製図試験 com の山口です。
この度は、数ある製図試験サイトの中から製図試験 com の合格マニュアルにたどりついていただき、心からお礼申し上げます。
スクールは 2025 年で 26 年目となり、製図試験業界でも最古参のひとつとなりました。

現状分析：新たなフェーズに突入している製図試験

問題文に対してのアルナシ、厳しい建築法規減点、間違いを許さない数字表現。残念ながら製図試験は、この 3 点の減点でほぼ合否が決められてしまうように変貌してしまいました。**主観的なプランへの判断ではなく、客観的に絶対値的なミスをしない**ことが、一級建築士の重要な素養と位置づけられているわけです。したがって合格するためには、アルナシ・法規・数値が絶対条件であると考え、ノーミスで確認申請を提出するようなイメージが不可欠となっています。

合格から逆算することの重要性

「合格から逆算すること」というのは、近年、製図試験 com が最も意識している学習概念です。合格ラインは「アルナシ・法規・数字のミスをしない」ことです。それに対して、あなたに必要な学習量とスケジュールを逆算するわけです。
減点法で採点されると言われているこの製図試験において、弱点を克服する、減点されやすいところを修正することが非常に重要になります。ただし逆説的ですが、学習しすぎると試験との距離感が失われたり、バランスを崩したりすることもあります。
合格の一点を見定めて、そこから逆算してあなた自身のプログラムを計画し、こなしていくことが最も重要な合格ノウハウになります。



合格に必要な5つの力

基礎力	10	読解・エスキース・作図・作文力
轍回避力	10	失格項目を絶対踏まない力
チェック力	10	小さなミスをしない力
時間管理力	10	６時間半をコントロールする能力
メンタル力	10	逆境においても戦える能力

新たに設定した合格力＝5 つの力

従来より、問題文の**読解力**、それをエスキースする**計画力**、それを表現する**作図・作文力の 3 つの力**が求められていますが、「アルナシ・法規・数字」の比重が高いため、まとめて**基礎力**としました。
小さなミスをしない**チェック力**とは別に、新たに失格項目を踏まない**轍回避力**、試験時間をコントロールし、ラスト 30 分の修正時間を確保する**時間管理力**。試験当日、この４つの力を発揮できるために全体を支える**メンタル力**。そしてそのメンタル部分を日々鍛えていくこととし、この**５つの力を合格力**として定義し直しました。

2025 年の製図試験 com は更に変化します

合格するためのゴールラインは同じなのですが、受験経験や建築経験も同じではなく、学習環境も異なりますから、逆算過程において、さらに個別対応は不回避であり、更なる進化やトライが必要です。ただ昨年はトライして全てができていたわけではないのでそれを修正し、本年度プログラムを編成しました。製図試験 com とともに合格をめざしましょう。

2024 年 12 月 09 日

製図試験 com 代表 山口 達也

製図試験.com ３つの特徴

１.どこにもない製図試験オンラインコース

製図試験.com がこだわっていること。それは資格学校の代替案ではなく、資格学校にはない 100%オンラインで学べるというスクールパッケージを作り上げていくことです。その特徴をご紹介します。

（１） 個別指導＋レベル別学習目標設定

7 月までの前半戦を中心に個別指導を行います。そのためにあなたが右のどのレベルにあるのか、学習レベル課題を コーススタート時点（1 月もしくは随時）に行います。その結果で右記に分け、学習目標を設定して、前半戦で全員 A 判定レベルをめざします。（レベルは他受講生には非公開）合格というゴールは同じであり、指導法が異なるだけでどのレベルの方も全講義受講可能です。

		6 時間 30 分完成	
		○	×
基礎力 理解	○	A	C
	×	B	D

（２） エスキースをステップで学べるカリキュラム

図面だけを添削しても、その過程の間違いを指摘しないと修正できません。製図試験 com では発足当初からエスキース手順を確立し、また細分化して解説した「ステップで攻略するエスキース」（学芸出版社刊）があります。更に手順は年々バージョンアップしており、2025 年度は、更に新しくする製図試験 com 動画講座でみっちり解説します。

（３） 独自ツール：本年度課題分析帖＋パーツ集

毎年度 8 月 10 日前後に発行する本年度課題分析帖は、本年度課題を余すことなく分析。単に技術的な内容だけではなく、なぜこの出題なのか、どういった方向性なのかまで踏み込んだ受験テキストです。受験生の約 5%がこのテキストで学習（昨年実績）していますが、受講生には更に詳細に解説し、基礎力を固めています。

（４） 自己添削チェックリストの導入

通信添削の新しい姿として、答案作成後、あなた自身で添削したチェックリストを同梱してもらう自己添削を昨年導入しましたが、あまり徹底できませんでした。本年度は、そのスタイルを確立させたいと考えています。受講生にはそのための添削マニュアルをお渡しし、かつ 3 月に講座も行います。受講生の皆さんが添削という視点から客観的に答案をみることができるチェック能力を身につけることが重要です。

（５） 気軽に質問できてかつ即答するシステム

コミュニケーションツールとして zoom、 LINE ライクな BAND 、新たなデータベースを準備しています。もちろん電話、メールでも気軽に質問していただけます。例えば、「二方向避難がわからない」→「どの部分がどうわからないのか今から zoom しましょうかー」こんな感じです。 回答は可能な限り即日即答しています。

（６） すべての添削図面を共有

シークレットにして欲しい受講生を除くすべての図面とその添削図をメンバーズサイト上で共有します。昨年はシステムに原因があり全ての共有はできませんでした。本年度は原則すべての情報を共有することで、全体の状況や他受講生のミスから学べることが多く、合格するために必要不可欠な方法であると考えています。

（７） 必要にして十分な問題数

試験当日、ひとつの建物を計画するという試験において、極端な話、1 課題をじっくり深めるという方法もあります。問題数だけで合否が決まるならベテランの方が合格しやすいわけです。課題数は前半 5 課題＋α、後半 10 課題+αとして、単に数をこなすだけではなく、かつ必要にして十分な問題数の設定をしています。

（８） アクティブラーニングを用いた講義

資格学校と異なり、製図試験 com では、事前に問題を解いておき、解いた受講生同士がディスカッションしたり、プレゼンするところから講義やワークを行います。会議の前に資料を読んで議論から始める方法だとお考えください。

（８） **フルカラーPDF 対応**

2024 年からフルカラーPDF での答案提出としています。紙ベースで郵送していただいた場合も弊社で PDF 化します。問題文、解答例は紙ベースでお送りしますが、それも PDF とした場合は PDF 割引を行います。

（９）**Gmail を必須とします。**

本年度から google スプレッドシートの機能を利用するため、Gmail の利用を必須とします。

試験用アカウントを Gmail で作成してください。よろしくお願いします。

２.小回りの効く融通性ある組織

製図試験 com は、代表である私（山口達也）の私塾として、26 年にわたって運営しており、いい意味でも悪い意味でも小回りの効く融通性のある顔の見える組織です。問題文の折り・発送から解答例の作成、質問の受け答えまで、多くは私が絡んでいます。また添削する講師とも連携がとっています。

３.リーズナブルな価格構成

前述したように小さな組織ですから、営業を雇用しているわけもなく、大きな教室の家賃もありません。そういった経費を除いた分、内容にかかわらず、大手資格学校では実現できない価格構成となっています。

この資格にかけられる年額は、給与の 1-2 ヶ月分が上限だと思います。それ以上は掛ける試験ではない。ということで十分な学習アイテムと内容を最大化し、かつ費用を抑えてパッケージ化し、年間で オンラインで 30 万円程度をひとつの目安としています。近年の郵送費や家賃・資材高騰に対しても最小限のアップに留めるよう努力しています。

Cf：重要な経験値を上げる方法

減点法で採点される製図試験で合格するためには、いつも最低点はキープできること、そのために弱点をなくす学習方法が求められています。しかも短期決戦でその力を身につけねばならないとした場合、短い時間で弱点を克服することが不可欠となります。

そのための重要なノウハウとして、「細分化」してくりかえし、手に覚えさせる学習方法をおすすめしています。

例えば、動線図を描くのが苦手、といいつつ、これまで動線図だけを集中的に練習したことがあるでしょうか。描けるようになるまで練習してきたでしょうか。エスキースのときに 1 回だけ描く、つまり課題数しか動線図を練習してこなかったのではないでしょうか。

結局、本試験で動線図が甘かったために不合格になったとしても、なんとなくできなかったということで、また翌年、一生懸命、1 問 1 問を丁寧に時間をかけて解く、まではいいんですが、再び動線図が穴のままではそこから不合格への道が開いたままの学習をしていたということになっているわけです。

製図試験 com ではエスキースを 13 ステップに細分化し、それぞれを徹底的に理解し、考え、さらに自らの手法として固めていただくことをひとつの手段としています。弱点がわかるまで細分化し、それができるようになるまでトライする。この方法を身につけると、様々な目前の問題点も、できるようなところまで細分化してこなしていくという手法として使うことができるようになります。これが製図試験の醍醐味だといつも思っています。

Cf：本来は楽しい建築計画

製図試験は制度疲労を起こしてします。試験に合わせて意味のないことをひたすら行う体力勝負のような資格学校のやり方では、学習するモチベーションをキープすること自体がもう修行レベルだと思われます。ですが、本来、2,000m2 級の基本計画を年に数多くこなせること自体、実は生涯に経験できないような貴重なものです。製図試験 com では少なくとも設計する楽しさを共有しつつ、学べる環境づくりをしたいと考えています。

合格スケジュール

合格するための要は、7 月までに基本を完成させておくことです。本年度も 7 月までの前半戦に力点をおいています。

製図試験.com年間攻略スケジュール ver.241209

項目＼日程		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		9月		10月	備考
		前半戦							後半戦					
		ESTEP		FP	公共施設課題				基礎		補強		直前	
前半戦	学習レベル課題	○												問題文無料公開
	エスキースESTEP講座		○											7月は動画学習
	自己添削講座			○										7月は動画学習
	前半戦通信添削3課題				1	2	3							課題配布とオンライン添削あり
	過去問添削課題				○	○	○							過去問について添削受付けます
	前半戦シンクロニ模試							○						6時間30分一式
後半戦	本年度課題発表													7/27予定
	オープン課題							○						問題文無料公開
	夏期講習会								○					
	後半戦通信添削4課題							1		2	3	4		課題配布or課題添削コース
	通信添削変形課題								R	R	R	R		各課題の条件変更課題
	基本問題集									○				３課題を予定
	過去問添削課題							○	○					本年度課題に応じて設定します
	シンクロ二模試											○		6時間30分一式
	総まとめ											○		まとめ資料と解説
	直前まとめ講習会												○	他社分析課題
講習	ガイダンス	○						○						何でもお答えします
	講習（東京・大阪・O/L)		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○○	計13回程度を予定
	自主ゼミ（東京・大阪・O/L)				○	○	○		○	○	○	○	○	計8回程度を予定

前半戦（課題発表までの基礎体力づくり）：基礎づくり→隔週ペース

学習レベル課題（自己分析用）

まず、1 月中に学習レベル課題でレベル判定を行い、合格への目標を相談しながら設定します。

２つの基礎講座（ESTEP 講座＋自己添削講座）

学習レベルに沿って、エスキースステップ講座及びセルフ添削講座を行います。この部分の基礎訓練が重要です。

全体講義・個別指導は zoom 及び動画配信を利用します。

徹底的に公共施設系課題

4 月からは、全てコミュニティ施設でこれまでの基礎を磨く３課題（＋過去問）を隔週で行い、学習レベル A をめざします。

前半戦の目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3 時間作図＋ 1 時間要点、そしてプランニングパーツの構築です。

本年度は、基準階問題が予想されますが、基礎は公共施設型であることから基準階はガイダンス程度を行う予定です。基準階スタディは十分間に合いますので心配無用です。

後半戦（本年本試験対応）→毎週ペース

課題発表とともにオープン課題を公開します。その後、4 添削課題＋4 課題変形課題を毎週出題します。またお盆前後に、本年度課題解説テキスト「課題分析帖 2025」、9 月初旬にパーツ集、基本問題集 3 課題を送ります。8 月末までの目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3 時間作図、そしてプランニングパーツの構築という本年度用の基礎力を固めます。

9 月からは、要点＋弱点補強に特化し、特に轍回避力・チェック力・時間管理力・メンタル力に集中していきます。

9 月最終週にシンクロニ模試を行い、その上で直前まとめを予定しています。

試験対策としては、きるだけ平常心でどう臨めるのか、5 つの合格力をいかに発揮できるのかという点を共有してまいります。

□**スケジュール詳細** (ver.241209)

オンライン・大阪は土曜日、東京は日曜日開催予定です。

Term		NO	カリキュラム	O/L大阪（土）	東京（日）	山口	全体予定・備考
前半戦	基礎講座	O/L	ガイダンスセミナー・個別相談	1月4日～		O/L	動画配信・オンライン面談予定
		O/L	学習レベル課題公開	1月17日		O/L	レベル把握用・問題文公開予定
		LEVEL	学習レベル課題講習	2月1日	2月2日	○	ガイダンスも含めた講習
		O/L	エスキース学習スタート	2月5日		O/L	動画配信＋個別対応
		LEVELw	２月講習	2月15日	2月16日	○	ステップエスキース1日講習
		O/L	自己添削学習スタート	3月4日		O/L	動画配信＋個別対応
		correct	３月講習	3月15日	3月16日	○	セルフ添削1日講習
		■	**製図試験申し込み**				
	公共施設課題	1	第1課題トライ	4月5日	4月6日	＊	コミュニティ施設課題１
		1w	第1課題講習	4月19日	4月20日	○	同課題の講習
		2	第2課題トライ	5月3日	5月4日	＊	コミュニティ施設課題２
		2w	第2課題講習	5月17日	5月18日	○	同課題の講習
		3	第3課題トライ	5月31日	6月1日	＊	コミュニティ施設課題３
		3w	第3課題講習	6月14日	6月15日	○	同課題の講習
		4	前半戦シンクロニ模試	7月5日	7月6日	○	コミュニティ施設課題模試
		■	**学科試験**	**7月27日**			課題発表は7月25日予定
後半戦	基礎構築	O/L	オープン課題（課題発表）	7月25日		O/L	本年度課題を当日配信
		O/L	課題解説ガイダンス	7月28日	7月29日	○	O/L・直接面談も含め開催
		1	第1課題トライ	8月2日	8月3日	＊	当日振り返り予定
		☆	本年度課題分析帖発送	８月８日オンラインデータ		－	紙ベースは8月15日予定
		1R	夏期講習会	８月9-10日	８月11-12日	◎	１日目エスキース・２日目作図
		2	第2課題トライ	8月16日	8月17日	＊	当日振り返り予定
		2R	第2課題講習	8月23日	8月24日	○	同課題の講習＋演習
		☆	基本問題集発送	8月27日予定		－	3－4問の予定
		3	第3課題トライ	8月30日	8月31日	＊	当日振り返り予定
		■	**学科試験合格発表**	**9月4日**		■	学科不合格者返金
		☆	本年度パーツ集発送	9月5日予定		－	20ページ程度
	弱点補強	3R	第3課題講習	9月6日	9月7日	○	同課題の講習＋演習
		4	第4課題トライ	9月13日	9月14日	＊	当日振り返り予定
		4R	第4課題講習	9月20日	9月21日	○	同課題の講習＋演習
		5	後半戦シンクロニ模試	9月27日	9月28日	○	直前講習会あり
			直前まとめ	10月4日	10月5日	○	最終確認
	直前	6	直前まとめ課題＋まとめ資料	10月8日（水）		O/L	資料送付＋解説
		■	**製図試験**	**10月12日**		■	当日に速報予定

前半戦は自己分析課題＋３課題＋模試＋過去問とし、2-３月は基礎固めとします。　　↑○山口参加、＊自主ゼミ、O/L オンライン山口参加

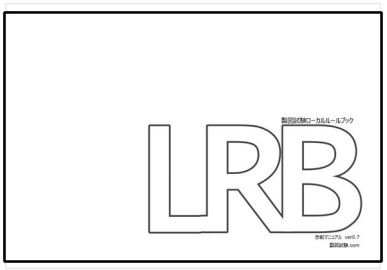
後半戦は４課題＋変形４課題＋模試＋オープン課題＋基本問題集３課題＋直前まとめ課題

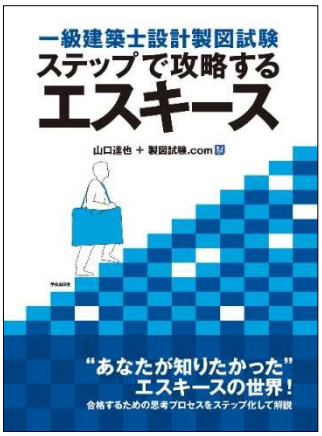
課題数が足りない方は別途個別対応として課題を用意します。上記は全て予定ですので、日程や内容を変更することもあります。

学習アイテム解説＋進め方

テキスト・教材

・無料メールマガジン ＋ 受講生専用メールマガジン
・ステップで攻略するエスキース（学芸出版社刊）
・製図試験 comLRB 添削マニュアル
（非売品 3 月発行予定）
・2025 年度課題分析帖＋パーツ集＋まとめ資料
・基本問題集（全 4 課題）
・用紙厚紙・エスキース共に 10 枚（通期で 20 枚）





製図試験 com 基礎学習講座

標準パーツ集＋解説動画（30 本程度）
Udemy オンライン 3 講座（各 6 時間程度） ＋別途 動画配信
この学習を通じて、学習レベルを D→C→B→A と上げていきます。

課題構成

課題は一部を除き、問題文＋答案用紙＋エスキース用紙＋解答例＋解答例エスキース が一式のセットとなっています。
・全て PDF として弊社からの紙ベースの郵送が不要な方には PDF 割引があります。
前半戦：10 課題 （学習レベル課題・課題 3・模試・過去問題 5 課題他）
後半戦：15 課題 （オープン課題・4 課題（＋変形課題 4 課題）・模試 ・直前課題 1 課題・基本問題集 3 他）
課題の講義：ZOOM（1 課題につき 1 時間程度、昨年実績 18 時間）

学習の進め方

前半戦の終了までに学習レベル A つまりエスキースの理解＋6 時間半完成までを目標としています。ここを逆算したスケジュールを立てることが合格へのステップとなります。 レベル A までには、解くというステップの学習と、それを時間内にこなすという 2 つの大命題がありますので、そのための反復練習にトライすることが必要です。
一方、既にレベル A の方は、むしろ多くの問題を解くことで、より実力を強固なものにするということと、自己添削を確実に行えるようにすることでチェック力のアップを図るという命題があります。このようにゴールは同じですが、前半戦は足並みを揃えるよりも個別のレベルアップがテーマとなります。
課題発表後の後半戦は 12 週ありますが、8 月 31 日までを後半戦の基礎構築に充てています。レベル A はもとより、合格力の 5 つの力を身につけることを目標とします。習熟過程では、単に反復練習をできるまでやるという非常に単調でかつ過酷な練習が不可欠です。 学習ポイントは、「**細分化して小さい成功を積み上げていくこと**」です。その延長線上に合格があります。

コースと費用

製図試験 com コースと費用（予価）

製図試験 com では、既に十分合格するレベルにあり、費用を最小限にしたい方のために、教材提供＋全動画閲覧可能な教材コース（コース１）、それに添削を含めたオンライン添削コース（コース３）、スクーリングまで行う通学塾（コース４）があります。添削については、自己添削を導入し、弊社で細かく添削する方向から、よりスピーディに添削することを目標とすることとしました。申込みは 12 月 10 日から受け付けています。

2025年度製図試験comコース費用　　ver.241209

コース ＼ 項目	基礎講座	教材	添削	通学	費用税込	既添削生費用税込	備考
通期（前半戦＋後半戦）							
製図試験com基本講座	■				38,000	14,000	全員受講必須
コース1教材コース	■	■			150,000	126,000	教材のみ添削なし
コース３オンライン添削コース	■	■	■		260,000	236,000	教材・添削込
コース４通学塾コース（東京・大阪）	■	■	■	■	370,000	346,000	通学＋自主ゼミ22回込
＊コース1/3でPDFのみの場合さらに１万5千円引き							
後半戦							
コース1教材コース	■	■			108,000	98,000	教材のみ添削なし
コース３オンライン添削コース	■	■	■		210,000	190,000	教材・添削込
コース４通学塾コース（東京・大阪）	■	■	■	■	310,000	280,000	通学＋自主ゼミ12回込
＊コース1/3でPDFのみの場合さらに１万円引き							

・エスキースと自己添削の基本を押さえるために基礎講座を必須とし、コース費用に含めています。
・自学自習できる方は教材コースを、添削が必要な方はオンライン添削コースをご選択ください。
・東京・大阪では、スクーリングを行います。スクーリングご希望の方は通学塾コースをご選択ください。
・コース 1 及び 3 で紙ベースは不要で PDF のみでよい方は、本年度も通期 1 万 5 千円、後半戦 1 万円減額します。
・添削は前半戦 10 回分、後半戦 10 回分、計 20 回分の費用となっていますが。前半戦の分を後半戦には使えません。
・追加添削はコース 1 で 11,000 円/課題、コース 3 で 5000 円/課題（税込）です。質問は常時受け付けています。

Cf：自己添削の重要性

これまででも、自己チェックリストとか、採点チェックリストとかを行っている資格学校はあります。しかし、その判断基準や考え方を共有し、その理論的背景を共有して、一定の添削ができるような自己添削ができるようなカリキュラムは存在していませんでした。それはその資格学校のノウハウの全てであるからです。またそれを公開してしまうと、試験作成サイドが逆読みできるということから、チェックリスト基準を明らかにしていくことは禁忌であったといってよいでしょう。
しかし受講生一人一人が添削講師レベルまで添削できること。これが製図試験 com の究極の目標です。

オンライン添削イメージ

オンライン添削は、昨年度の実績ベースから、新たに下記のような手順をイメージしています。

	製図試験com事務局		受講生	備考
① 問題送付	問題作成	送付・PDFアップ→	受取	送付とともにPDFアップ
② 問題トライ 自己添削			問題トライ・自己添削	1回目トライ
③ 答案送付	受取	←送付・PDFアップ	答案送付	郵送もしくはPDFアップアップ
④ 図面共有	添削前図面PDF共有＋zoomディスカッション			添削前所感
⑤ 課題解説	課題解説動画(zoom)			youtubeの場合もあり
② 問題再トライ 自己添削			問題再トライ・自己添削	納得できない場合、再トライ
③ 答案送付	受取	←送付・PDFアップ	答案送付	郵送もしくはPDFアップアップ
⑥ 添削返却	添削	送付・PDFアップ→	受取	添削も郵送もしくはPDF
⑦ 答案共有	添削答案PDF共有＋zoomディスカッション			ポイント解説・議論
④ 個別指導	個別指導	←アプリzoom→	不明点整理	必要に応じて個別指導
⑤ まとめ講義	課題のまとめ解説動画(zoom)			課題の総まとめ
⑦ 質疑応答	応答	←アプリzoom→	不明点整理 自己開発ノート	質疑応答・個別対応
② 問題トライ 自己添削	受取	←送付・PDFアップ	問題Rトライ/解き直し	納得できない場合、再トライ

Cf：新たなシステムの功罪

昨年度は、新たなシステムに挑戦するも、失敗続きの 1 年でした。ご利用された受講生には本当にご迷惑をおかけしました。

・動画講座のアプリが思うように使えず廃止したこと
・図面アップロードセンターにバグがあり、しょっちゅうクラックしていたこと
・オンライン添削が難しく、PDF を印刷して添削し、それをスキャンして PDF 化するようにしたこと
・個別相談予約システム AirReserve も制限が多すぎて使えなかったこと

等、散々でした。しかしトライしないことには次のしくみ化はできないわけです。

本年度もご負担おかけすることもあるかと思いますが、次の世界を見るためにご協力のほどお願いします。

製図試験.com ご紹介

名 称：製図試験 com（https://seizushiken.com） 運 営：有限会社 I.L.D.教育事業部

大阪事務局

〒554-0012

大阪市此花区西九条 2-7-8 田丸ビル 3 階

電話 06-7181-3701　FAX 廃止

メール：guchi@seizushiken.com

本年度大阪講習会場を別途借りる可能性あり。

東京講習会場

〒101-0042

東京都千代田区神田東松下町 33

COMS HOUSE 2F としまち研 会議室

指定金融機関

ユ）アイエルディ

Paypay 銀行 すずめ支店 普通 3175127

ゆうちょ銀行　〇九九店 当座 0222802

郵便振替：00970-2-222802

関連サイト

https://facebook.com/seizushiken/　https://x.com/seizushiken/

代表：山口 達也（ハンドルネーム：曽根 徹）

1962 年 11 月 26 日生

大阪工業大学建築学科都市計画研究室

神戸大学環境計画学専攻、工学修士（早川和男研究室）

阪神電鉄就職後、レンゾピアノビルディングワークショップに転職。

都市計画コンサルタント、経営コンサルタント、CM 会社等を経て、

有限会社 I.L.D.を設立。セルフビルディング中心に設計活動の傍ら、

2000 年に「学科製図.com」を設立。

25 年間で 3,000 名以上の一級建築士を輩出。

2015 年コンテンツをまとめなおし、「製図試験.com」を立ち上げ。

一級建築士設計製図試験だけに特化したしくみを開始。

業界初のオンライン添削・ZOOM ウェビナーを開始。

2018 年より学科試験.com も同時に主宰。

2023 年より阪南大学非常勤講師

2024 年地獄谷タリアセンプラスを開設

このテキストは 2024/12/09 現在のものです。コンテンツの無断利用は固く禁じます。

Copyright ©製図試験.com All rights reserved.